

市民医療センター長・事務部長目標

市民医療センター長 繁 英樹(しげ ひでき)



市民医療センター事務部長 鈴木 哲也(すずき てつや)



市民医療センターの仕事

市民医療センターは、公的医療機関として地域に必要な医療の確保と保健医療の向上及び健康維持・増進を図るため、内科の入院・外来診療、小児科の外来・急患診療及び人間ドックなどの健診事業を中心に病院事業を運営しています。

市民医療センターの令和2年度の目標

市民医療センターの目標は、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止・抑制に取り組むとともに、市民の皆さまが、住み慣れた地域でいつまでも暮らすことができるよう、市内の医療機関や地域包括支援センターなどと連携強化を図り、地域完結型医療体制を推進するとともに、安心して子育てができるよう、小児医療体制の安定的な維持に努め、地域に根ざした病院として、市民の皆さまから信頼される医療機関を目指します。

目標達成に向けた重点事業

	事業項目	事業の概要	事業の数値目標	年度末の目標達成度合
1	新型コロナウイルス対策	新型コロナウイルスに伴う院内感染の防止、感染者の拡大の抑制・予防のため、国の方針や市内感染者数の状況に応じた対応を図ります。	新型コロナウイルス感染者拡大防止のため、かかりつけ医を通じた予約制による発熱外来の開設・運営を行います。 所沢医師会の実施するPCR検査センターの運営にハード・ソフトの両面で協力します。	4月に発熱外来を設置し、6月には所沢市医師会と連携しPCR検査センターの立ち上げました。12月には埼玉県指定診療・検査医療機関としてかかりつけ患者以外も積極的に受け入れ、新型コロナウイルス感染拡大抑制に努めました。
2	地域医療の貢献と在宅医療の支援	埼玉県地域医療構想に示される地域の医療環境の変化に合わせ、市内の関係機関や地域包括支援センターなどとの連携強化を進め、地域医療への貢献や在宅医療の支援に取り組みます。	地域包括ケア病床の安定的稼働を図るとともに、在宅療養や介護施設からの患者の入院から退院まで円滑に行える地域連携(地域完結型医療)体制を推進します。	コロナ禍の影響や医療スタッフの減員により入院患者数が減少しましたが、引き続き関係機関と協力し、地域包括ケア病床の安定稼働と地域連携体制の維持・推進に努めました。
3	小児初期救急医療体制の推進	安心して子育てができる医療環境を整備するため、小児科第二次救急医療機関や、市内の関係医療機関と連携しながら、切れ目のない小児初期救急医療を提供できる体制を維持します。	所沢市域全体で、全日、昼間・夜間・深夜の全ての時間帯で、小児初期救急医療体制の安定的な運営に努めます。	年間を通して、すべての時間帯の小児初期医療体制は維持できましたが、新型コロナ感染予防(マスク・手洗いの徹底)の効果でかぜなどの一般感染症の罹患者が減り、その結果患者数が半減しました。

4	経営状況の改善	地域の中で必要とされる医療を提供する役割を果たしながら、第三次所沢市市民医療センター改革プラン(平成29年度～平成32年度)を推進し、病院事業の経営改善に取り組みます。	第三次所沢市市民医療センター改革プランに掲げた推進項目の取り組みを進め、経営指標に係る数値目標の達成を目指します。また、将来に向け、安定的に事業を継続していくため、適切な医療スタッフの確保に努めます。	コロナ禍の影響もあり、改革プランに掲げた数値目標の達成には至りませんでした。令和3年度退職予定の小児科医師の補充が確定し、安定的な事業運営の継続が可能となりました。
---	---------	--	--	--